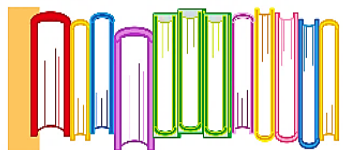


おはなし給食

きゅうしょく



ほん なか どうじょう りょうり
本の中に登場する料理を

きゅうしょく ていきょう
給食で提供します。

「ゆけゆけ!あずきひめ ~ちやごま殿下と二頭の竜~」より

3/15(金) 赤飯

赤飯は全国的に、おめでたい日やお祝いの日^{ひ た}に食べられています。昔^{むかし}から、赤い食べ物^{あか た}は邪気^{まじ}(悪いもの)を払い、災い^{わざわ}を避ける力^さがあると考えられていました。それにちなみ、卒業^{そつぎょう}と進学^{しんがく}、進級^{しんきゅう}を祝^{いわ}って学校給食^{がっこうきゅうしょく}でも赤飯^{せきはん}を出しています。

あずきは「あずきの あんちゃん ずんちゃん きんちゃん」(とみなが まい作・植垣 歩子絵/福音館書店)、「あずきまる」(早川 純子作絵/農山漁村文化協会)、「あずきがゆばあさんとら」(パク・ユンギョ作 ペク・ヒナ絵 かみやにじ訳/偕成社)など、いろいろな本にもてできます。

「ゆけゆけ!あずきひめ



~ちやごま殿下と二頭の竜~

あずきまる なお美 作・絵 ポプラ社



~どんなおはなし?~

お赤飯^{せきはん}をみんなで力^{ちから}を合わせて炊^たいたけれど...ごましおがなければ、お赤飯^{せきはん}は完成^{かんせい}しません。あずきひめとカエルじいは、ごまを求め^{もと}て、ごまが特産品^{とくさんひん}のうごまの国^{くに}へ。しかし待^まっていたのは、意地悪^{いじわる}なちやごま殿下^{でんか}と二頭の竜^{りゅう}でした。みんなでおいしいお赤飯^{せきはん}を食べることができるのか...

いろいろなハレの日の料理

卒業式^{そつぎょうしき}などのお祝い^{いわ}の行事^{ぎょうじ}や、お祭り^{まつり}など特別な日^{とくべつ ひ}を「ハレの日^ひ」といます。ハレの日^ひに食べる料理^{りょうり}を一部紹介^{いちぶしょうかい}します。

餅(もち)

《お餅^{もち}を使ったハレの日^ひの料理^{りょうり}》

・鏡餅^{かがみもち}、お雑煮^{ぞうじ}(お正月^{しょうがつ}) ・菱餅^{ひしもち}(ひなまつり) ・かしわもち(こどもの日^ひ) など
餅^{もち}には稲^{いね}の霊^{れい}が宿^{やど}り、餅^{もち}を食べる人^{ひと}にはその力^{ちから}が与^{あた}えられるとされています。お正月^{しょうがつ}の餅^{もち}つきや鏡餅^{かがみもち}をかざる文化^{ぶんか}のもとになっています。



鯛(たい)

《鯛^{たい}を使ったハレの日^ひの料理^{りょうり}》

・睨^{にら}み鯛^{たい}(お正月^{しょうがつ}) ・お食^くい初^ぞめ(百日祝^{ひゃくにちいわ}) など
鯛^{たい}は、「めでたい」という意味^{いみ}と、あずきと同じ^{おな}ように鮮^{あざ}やかな赤^{あか}の色^{いろ}合い^あが悪いものを寄せ付^よけないとされてきました。

